

水草研究会会報

72号 (2001年3月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 72 (Mar. 2001)

水草研究会

目 次

持田 誠・三浦 善裕：淀川ワンドのボタンウキクサ	1
中 優：三重県松阪市のため池における水草相	5
高田 順：ホシクサ属数種の種子形態（4）	17
静岡県立静岡高等学校生物部： 静岡市近郊における5種の絶滅危惧植物の現状	24
神谷 要・国井 秀伸：汽水性沈水植物リュウノヒゲモ （ <i>Potamogeton pectinatus</i> L.）に与える水鳥の影響	33
神谷 要：水鳥の糞から取り出したリュウノヒゲモ <i>Potamogeton pectinatus</i> L.の種子の発芽について	36
府県版レッドデータブックの紹介.....16, 23, 32; 水草関連文献リスト.....37; 他	

〔表紙写真〕ボタンウキクサは「環境復元植物」？（神戸市西区 2001年5月）

表紙写真を見て、思わず笑ってしまったという方もおられるのではなかろうか。本誌にも報告されているように、ボタンウキクサは、我が国ではもっとも厄介な移入植物になろうとしている。ボタンウキクサと他のアクアリウムプラントとの違いは、販路がホームセンターや園芸ショップまで広がっていて、手軽に入手できることである。この写真は園芸ショップの店頭で見かけたボタンウキクサ（1株180円）の説明プレートである。「ネイチャービオトープ植物（自然環境復元植物）」とある。持ち合わせていたカメラを思わず取り出した。このような「優しい」言葉に釣られて気軽に購入し、増えすぎた植物体の処分に困った挙げ句、不用意に近くの川や池に捨てたことが繁茂の原因になっている場合は少なくない。180円の気軽な買い物の後始末が、数百万の税金を投入した防除作業であるという認識はどこにもないようだ。

近年、移入動植物の規制（輸入規制、販売規制）は生物多様性保全の観点から世界的な流れとなっている。しかし、日本ではまだまだ移入生物に対する危機感は薄い。ボタンウキクサを「害草」にしないためにも、大きな声で問題点を訴える必要がありそうだ。

（写真と文：角 野 康 郎）